

# なまもろーど

The Name Road

ホームページアドレス  
<http://www.ranshokai.jp>

E-mailアドレス  
[info@ranshokai.jp](mailto:info@ranshokai.jp)

発行所 高岡教区寺族青年会  
住所 〒933-0878  
高岡市東上関466  
西本願寺高岡会館内  
発行人 青木 哲隆  
編集者 広報部  
発行日 2016年3月31日

## 巻頭言

鸞翔会  
第二十一代会長 青木 哲隆



平素より寺族青年会の活動に多大なご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。

さて、三月三日には寺族青年会発会四十周年記念講演と記念パーティーを皆さまのおかげにより無事終えることができました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

今年度は新体制でスタートした当初より、四十周年記念事業の成功を目標に掲げて進んでまいりました。テーマ設定や事前研修会など多くのことを会員同士話し合い、意見を交わす中で、記念事業を終えた現在、少しの安堵感と少しの

達成感に満たされています。しかし、来年度に向けすでに会員は奔走しております。

来年度、寺族青年会では六月末に行われる浄土真宗青年僧侶連絡協議会（浄青僧）のフットサル大会を誘致させていただきました。当会は大会連覇と成功に向けて、

また会員が結束しなければなりません。フットサル大会が終われば、九月には先輩方から受け継ぐダーナ・バザーを開催する予定になっております。ダーナ・バザーに関しましてはご承知の通り、時代の変化の中にあつて運営方法やバザーそのものを見直す時期に来ていると思います。また話し合いの中で方向性を決めていきたいと思っております。

このように来年度も大きな二つの行事を迎えるわけですが、苦勞も多いことと思います。しかし、やり遂げた後には何ものにも代え難いものが当会にもたらされるような気がしております。

社会の価値観がめまぐるしく変わる現代において寺院の未来を考えたとき、私には不安しかありませんでした。不安な気持ちは消えませんが、新しい寺院の可能性や僧侶としての生き方や求められるもの、それに応えていくということとはどのようなことなのか？今は、少しだけ明るい未来が見えています。そのことを教えてくれたのが、寺族青年会で出会った諸先輩方や先生や仲間です。気が進まずに言われるがままに入会した私でしたが、今は寺族青年会があつて本当によかったと感謝しております。

来年度の活動を通して、また新しい仲間や新しい自分に出会うのが楽しみです。みなさまには今後寺族青年会に変わらぬご指導ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 第1回寺青連研『お寺の可能性』

平成27年 9月10日

岡西好持

寺族青年会四十周年記念講演のプレ研修会として開催された今回は、「お寺の建物としての機能を有効活用する」という視点から、「お寺の可能性」をテーマとし、寺坊で怪談ライブや寺コン（お寺で行われる合コン）を開催するなど様々な活動に取り組んでいる篠島敏信さん（寺族青年会会員）を講師に研修が行われました。



篠島さんは、「お寺はこのままでは滅亡していく、長所を伸ばして短所を改善していくしかない」と提起され、「どんな活動をやるにしても門徒さんを巻き込むことが非常に重要で、それが門徒さんの自主性や『自分たちの寺だ』という意識の高まりにもつながる。それは本来真宗寺院が持っていたはずの強みではないか」と指摘されました。

また、活動やイベントを考える際にも、各寺ではそれぞれ状況が異なるため、その寺の能力を分析することが大事であり、そのために①立地条件を把握する、②相談できて、すぐに動いてくれる門徒さんがいるかどうか、③二点のチェックを提案されました。

話し合い法座では、茶粥やパークゴルフ等、各寺それぞれにイベントや工夫などを行っていることが報告されましたが、その中で「結局は寺は建物に過ぎないのだから、肝心なのはそこにいる僧侶次第なのではないか」という意見が印象的でした。

たしかに、門徒さんは寺という建物そのものに用があるのではなくて、そこにいる僧侶に用があるから付き合いがあるのであって、「自らが僧侶として門徒さんとどう向き合っていくか」ということを抜きにしてはどんなイベントも一過性のものにしかならないでしょう。

篠島さんの問題提起も、イベントの方法論や何をすれば活路が開けるといった単純なものではなく、その企画会議や運営を通じて門徒さんとのつながりがいかに築いていくか、という点に主眼が置かれていたように思います。

イベントは手段にしか過ぎません。その後の関係が築けるかどうかはそこにいる私たちの僧侶としての資質が問われるのです。

## ねっと輪くく二〇一五

平成二十七年七月二十六日

数井 教道

昨年七月、高岡教務所において「ねっと輪くく二〇一五」が開催されました。私は、二度目の参加でしたが、今回は子供二人を連れて行きました。まだ二人とも小さいので大丈夫かなと不安もありましたが、みなさんに優しくして頂き、すぐに元気いっぱい走り回っていました。

「ねっと輪くく」は寺族青年会と福祉作業所の方々で隔年に行われるイベントです。今回は声明サークルのお勤めから始まり、寺族青年会による全員参加のピング大会、チーム対抗のペットボトルボーリング、手話サークルのみなさんは「上を向いて歩こう」を手話を交えて歌われ、教えて頂きながらみんなで歌い、非常に盛り上がりました。また作業所で作られた様々な品物の販売もあり、そこで購入したピンク色の髪ゴムを子供はとも気に入り今でも「お母さん結んで」とねだっています。

普段なかなか会うことのないみなさんと交流し、貴重な体験を親子共々させて頂きました。次回の開催は二〇一七年度ですが是非また参加させて頂きたいと思っています。

## 実践運動研修会

平成二十七年十二月十三日

福田 慶隆

去る十二月十三日（日）午後四時半より西本願寺高岡会館にて、寺族青年会実践運動研修会が開催されました。

テーマは「高岡教区百年の歩みく古きを温（たず）ねてく」。今年度出版されたばかりの『高岡教区百年の歩み』をテキストに、教学研究室研究員の津山玄亮氏をお迎えし、高岡教区の歴史についてお話しいただきました。

印象に残ったのは、「私たちの高岡教区には何でも目前でつくりあげてきた歴史がある」との言葉でした。それは現在の高岡会館建設に限らず、僧侶子弟を養成する学校の創設、また高岡教区の独立など、まさに現在の高岡教区の基盤となるものが、高岡教区の方々自身の手に



## 寺青レクリエーション

平成27年7月7日・9月22日

耳 浦 康 真

よって成されてきたものだったのです。  
高岡教区には、それぞれの時代における困難や課題に直面した時も、それへこたれず、あきらめることなく、共に手を携えながら、前を向いて力強く歩んできた歴史がありました。  
今、私たちもまた、先行きの見えないお寺の在り方など新たな困難・課題に直面しています。先人たちの力強い歩みを学ぶなかで、仲間たちと共に、しっかりと地に足をつけ、仏法を灯とし、新たな問題にも粘り強く向き合っていくという思いを確認させていただいた今回の研修会となりました。

今年度の寺青は新体制を迎え、それに加えて四十周年記念の節目でもあり、その記念事業も成功させるためにも、会員同士の交流と結束を深める所からスタートしました。

その第一回目として「寺青遠足〜古川三寺参りと飛騨グルメ」を企画して、七月七日に実行しました。当日は小雨混じりのお天気でしたが、子供さんを含む、十三名の参加で、古川三寺を参拝しました。午後からは飛騨高山に移動して、それぞれ飛騨のグルメを満喫しました。高岡に帰ってもその熱は冷めやらず、その後は飲み会に突入してその日遅くまで交流は続きました。この日は新しい世代の会員も参加していたため、次の寺青を担う世代に期待をかけられる日でもありました。

第二回目のレクリエーションは九月二十二日の「寺青バーベキュー〜仲秋の宝性寺編〜」でした。この日は秋の大型連休の最中でもあるので、お寺専業の方の参加は少ないと思いましたが、夫婦・お子さん連れの参加で三十六名の参加と、大変好評をいただきました。企画した寺青執行部の用意した花火、ビンゴ大会、フットサルチームの浄青僧全国大会祝勝会もグダグダでしたが、会員の皆さんには楽しんでいただけたと思います。ここで会員相互に「秋に仲を深める」事ができたと思います。また、その場を提供してくださった宝性寺住職・初瀬部真亮様・寺族の皆様には、このご協力で厚く御礼申し上げます。（今年度楽しかったので、できれば来年度もよろしく願います・・・）



## 本山総参拝

平成二十八年二月四日

長 井 教 行

れ、総勢約百名の参加がありました。

テーマは「手業」と題し、京都における職人が生み出す仏具の美しさを感じ、仏具に籠められた技と心に向き合うといった趣旨で、八人の職人さんをお招きして経歴・仕事内容や実情を伺ったり、実際に我々が香盒に金箔を貼ったりしました。

普段当たり前のように使用している仏具は分業制で作られ、その企画発注をする仏具屋さんによって職人さんが入れ替わるため、仕上がりが違ってくるのだとか。だから、前卓を購入するにしても金額の交渉だけではなく、「こういう感じの物を自坊に置きたい」としっかりとイメージを交渉することが、伝統と向き合うことに繋がると思いました。

夜はスコッチ片手に葉巻をくゆらせておりました。これも職人の技と心ですね、わかります。（今回、鸞翔会からは五名の参加に留まりました。今後の自教区主催の時のため、どのように運営進行をしていたかを見ておくべきだと、期待を込めて申し上げておきます。）



二月四日、浄土真宗青年僧侶連絡協議会（浄青僧）主催の本山総参拝が開催されました。二年に一度本山に参拝をするこの企画、今回は備後教区青年僧侶の会「備龍会」の皆様が担当さ

## 第二回寺青連研

『未来予僧図〜きつと僧だろ？どうなの？』

平成二十八年二月十七日

公文名 智

本研修会では『中外日報』に掲載された松本紹圭氏の記事「仮想の寺院や僧侶の未来」を参考に話し合いが進められました。

前回の第一回研修会では篠島敏信氏（寺族青年会会員）を講師に迎え、今置かれてお寺の現状・取組みに重点を置いた話し合いがなされました。それ

を受けて今回は「未来予僧図」というテーマのもと、遠いようで近い十五年後の社会を想像し、その中でどのような僧侶が求められるのか意見交換を行いました。

去る十五年の変化さえ全く予想できなかった我々が、来る十五年後の未来を予想するというのは困難なことですが、それでも容易に予想される門徒数・法事の減少など、寺院を取り巻く悲観的な意見が多く飛び交いました。その時代に生きる人々が何に価値を感じ、何に不安を覚えるのか？そしてその中において、お寺・僧侶としてできることは何だろうか？それぞれに考える良い機会になったと思います。

寺族青年会四十周年記念講演においても印象的だった「温故知新」という言葉。先人が繋げてきた思い・願いの中に、我々がどういった新しいエッセンスを加えていくのか。僧侶個人の資質が問われている今だからこそ、内に籠らず外に出て、個々の意見を共有・尊重していくことが必要です。

悲観的な現状はそれぞれの寺院によって異なるので、それぞれが考えなければいけません。それは大きな重圧となって私たちに押し掛かってきます。そんな今だからこそ鸞翔会の繋がりと、活動を通して何かぼんやりとした道でも見つからないだろうか。そんな楽観的なことを思っています。



## 四十周年記念事業を終えて

平成二十八年三月三日

水上賢志

去る三月三日、寺族青年会鸞翔会の発足四十年を記念しまして、記念法要、講演会、同日の夜には記念パーティーを開催させていただきました。この場をお借りしまして、心温まる励ましとご参加いただきましたこと、皆様に深くお礼申し上げます。

今回の記念事業においては、テーマ「輝けお寺！温故知新」を掲げ、記念法要、記念講演会並びに記念パーティーの開催。その他に、記念報告集の発行、記念輪袈裟の作成も行いました。

記念法要では、なじみの少ない後夜礼讃をお勤め致しました。習礼を重ねた結果、本番では、声もそろい素晴らしいお勤めが出来たのではないかと思います。

記念講演会には、未来の住職塾理事、松本紹圭氏をお招きし、お寺の可能性についてのご講演をいただきました。参加された方にとっては、これからのお寺のあり方、僧侶としての生き方を問い直す大きな契機となった事だと思えます。

また、記念パーティーでは、歴代会長をはじめとして、多くのOB、OGの皆様のご出席いただきました。お話を聞かせていただく中で、それぞれの年代にとってこの寺族青年会がどのような役割を果たし、どのような想いをもって活動してこられたかを知り、改めて諸先輩方が残してくれた大切なものを会員一同知ることが出来ました。

今回の記念事業に付随しての記念報告集の発行は、時間が限られた中で担当者の頑張りによって皆様に見ていただける形になりました。記念輪袈裟は、会の輪袈裟を作成してはどうかと意見がありながら、なかなか実現に至らなかったものを、今回やっと実現する事ができました。この輪袈裟を着用して臨んだ記念事業でしたが、確かに会員の絆が一層深まったように感じられました。

私は、テーマ「輝けお寺！」の中には、これからの寺族青年会をどう輝くものにしていくかという想いも含んだものだと考えて、実行委員長を勤めてきました。そういった意味では、今回の記念事業は成功だったとは言えないかも知れませんが、やはり、若手の会員の参加は少なかつた。参加協力をもっと早くからお願ひすべきだったとの反省もあります。この記念事業が会員にとって単なるイベントに終わらせないためにも、これからも活動のあり方を一緒に考えていくことが大切ではないでしょうか。寺族青年会を通じてできたつながり、問題を共有する事の喜び、そういったものが、いかに貴重で大切なものなのかを感じる事ができたならば、これからの寺族青年会は輝いていけるのではないかと考えています。そして、内向きの議論に終始する事なく、外に向けて活動を一層行い、諸先輩方が残して下さったものを引き継ぎながら、新たな歩みを続けていきたいと思えます。





## 声明サークル

代表 岡田 寛

声明サークルでは、一年を通じて月二回程度のペースで声明の練習を行ってきました。

今年度も、七月の「井波別院特別永代経」へ向けての練習からスタートしました。今回は別院永代経に初めて出勤した際と同じ『阿弥陀経作法』を勤めました。本番では炎天下で汗だくになりながらも、無事に勤めることができました。また、七月末には「ねっと輪くく」に参加、そして三月に行われた「寺青発会四十周年記念法要」においては結果として出勤し、『後夜礼讃偈』を勤めました。

さて、このたび声明サークルは節目を迎え、サークルの形態を変更することになりました。次年度からは有志の雅楽サークルと合併し、「勤式サークル」として新たに活動を開始します。寺青会員の皆様には、引き続き各種法要への参加協力をよろしくお願いいたします。

最後に、これまで声明サークルに関わっていただいた方々に心より感謝申し上げます。

## 手話サークル

代表 射水 梓

今年度も、手話サークルでは脇坂菊雄さんをご講師に迎え、手話の練習を行いました。今までは月に一、二回のペースで集まるようにしていたのですが、今年度はなかなかそれも難しく、前半は練習の少ない年になってしまいました。

そんな中でも、昨年七月に行われた「ねっと輪くく」と、今年三月に開かれた「鸞翔会発会四十周年記念パーティー」において「上を向いて歩こう」の手話コーラスを披露させていただくことができました。

次回の手話サークルは五月の十九日を予定しており、「涙そうそう」の手話コーラスを練習し始めるつもりです。

しかし現在、練習に出てこられる会員の方も少なくなっており、新しい方を切実に募集しています。基本的には

平日の午後七時半から教務所でサークル活動を行っています。全くの初心者の方でも大歓迎です。ご興味を持たれた方はぜひ一度見学に来ていただけると嬉しいです。

五月以降の練習日等もお知らせいたしますので、射水までお気軽にお尋ねください。

連絡先は、伏木組・光西寺まで。

## 蓮花の会

代表 土合 祐子

三月十五日に、親睦会を行いました。六名のメンバーと二人の小さな可愛い仏の子と、ありがたい時間を過ごさせて頂きました。

二十七年年度の反省をし、二十八年度に学びたい事、やってみたい事、意見を交換や相談をし、二十八年度の見通しを持つ事ができました。

メンバーが顔を合わせ話をする事は、やはり大切だと改めて感じました。近況報告や、日常の何気ないちょっとした悩み、子育てや各々のお寺の事など、語り合いながら、親睦を深める事ができたと思います。

メンバーの皆さんと笑い合えたご縁に感謝し、日々、南無阿弥陀仏を感じながら生きていきたいと思いました。

二十八年度、メンバーの皆さんにお声掛けしますので、時間と気持ちのタイミングが合えば、ぜひ、一緒に活動していきましょう！お待ちしております♪

## フットサル

代表 水上 賢志

六月二十八日に北海道にて開催された「第八回浄青僧フットサル全国大会」では、十六名（OB含む）という大人数で参加して、見事に優勝を果たすことが出来ました。次回の全国大会は、高岡教区が主催し、石川県を会場に六月二十九日に開催する予定です。この大会の成功はもちろんのことですが、試合の結果にもこだわって、これからも、月一〜二回の練習を重ねてレベルアップを図っていききたいと思っております。参加者の年齢層が若干高くなってきました。そこで、新たな参加者募集中です。

経験の有無は問いません。少しでもフットサルに興味のある方、日頃の運動不足を解消したい方、ダイエットを考えている方、ぜひご参加お待ちしております。よろしくお願い致します。

退会者より一言



水波組 光蓮寺  
梅森 義教さん

元々、寺族らしい事もしてなかったもので少の抵抗もありましたが、色々な貴重な体験、尊い出会いをいただきました。ありがとうございました。



水波組 明圓寺  
向田 永朗さん

教師教修最終日に、桃井真さんが「このまま一緒に浄青僧北海道大会に行かない？」と誘って来て、「嫌だー」と即答したところ「じゃ、バザー手伝ってよ」と返され、「それぐらいなら」と言ってしまったのが入会のきっかけです。

以来、こういった勧誘手口をはじめ、様々な事を学ばせて頂きました。有り難うございました。



関野組 西大寺  
桃井 真さん

とっても楽しい十五年間。ご縁あって鸞翔会発足年に私も生まれ、常に全員が輝く寺を目指し温故知新を実感。二十五周年度のねっと輪くりに始まり全国真宗青年の集いへの積極的参加やダーナバザー副実行委員長に於いて多くを学んだ。手話コーラスや記念法要なども含め、本当に沢山の出会いがあった。全ての人が輝け！最後に法輪煎餅モストラブ！！



五位組 永賢寺  
川岸 雅紀さん

私が鸞翔会にお世話になったきっかけは、二〇二一年から鸞翔会の退会年齢が四十歳に改変されるお知らせを頂き、得度させて頂いてから一年くらい、当時三十五歳の私は、またと無いご縁だと思い、入会させて頂きました。

早くも五年が過ぎ、非常に限られた時間でしか活動に参加出来なくて、大変申し訳なく思います。短い間でしたが、皆さん本当にありがとうございました。



若神組 善興寺  
飛鳥 千春さん

よくもわるくも伝統を重んじる寺院生活の中で、男女、僧侶であるなし関係なく一人として当青年会で活動できたことは、生活の支えとなりました。また、それまで自分にはなかった、社会問題を自分のこととして考える、広い深い視点を与えていただきました。本当にここで活動できたことに感謝します。有難うございました。



川上組 順勝寺  
長井 教行さん

思い返せば、当時会長の吉江さんに「You、広島に行っちゃいなよ」と言われ、ホイホイ着いていったのが始まりだった三十一歳冬の頃、怖いものはありませんでした。

あれから十年。いろいろやらせて頂きましたが、ここで築き上げた交友関係が唯一無二でございます。有難う。



水見東組 慈光寺  
岡部 称子さん

第十一回ダーナバザーや第十五回浄青僧全国大会のお手伝いをご縁に入会してから十数年。

その間にいろいろな経験をさせていただいたこと、たくさんの方々とのお出会い、これからも大切にしていきたいです。

本当にありがとうございました。



水見東組 長福寺  
北鹿渡 孝誓さん

高岡の寺族青年会に入会し、気が付くと退会の年齢に達し、時の流れの早さに驚いています。

現在、私は水見寺族青年会のお世話をしており、以前から、高岡寺青と水見寺青との連携、そして積極的な行事等への参加を課題として考えており、今後も取り組んでいきたいと思っています。

今後、寺族青年会の活動の素晴らしさを、社会の方、特に若い同年代の方々に、より一層ご理解して頂けるよう、協力させて頂きたいと思っていますので、今後とも宜しくお願い致します。

本当にありがとうございました。

## 新入会員の紹介

新入会員の方にインタビューしました。

- ① 趣味または特技
- ② 苦手なものは？
- ③ 何か一言



水波組 西養寺  
村上 昂文さん

- ① これから見つけていきたい。
- ② 目覚まし
- ③ 新しい自分を見つけて行きたいと思っています。



新湊組 圓徳寺  
池内 将貴さん

- ① 旅行。地図を見ること。
- ② 魚卵。
- ③ よろしくお願ひします。

## 新入会員募集

高岡教区寺族青年会では随時新入会員を募集しています。  
気軽に参加しませんか。





<http://www.ranshokai.jp>

ホームページ  
随時更新中!!

## 法輪せんべいのご案内

法輪せんべいは、当会が販売する法輪マークと法語が印された一袋二枚入りのおいしいせんべいです。

この法輪せんべいの収益金は東日本大震災への支援活動や、その他さまざまな社会福祉活動の資金や寄付に充てられております。

報恩講や永代経のお飾りに、門信徒さんへのお返しや、ちょっとした贈答品などに、どうぞご用命くださいませ。

(\*表示してある価格は、いずれも販売価格です。)

お申し込み、お問い合わせは

五位組 岡西 好持・福田 慶隆まで

代表番号 050-5587-7708



パッケージはサクラと若草色の二色です。

品目	袋数	価格
特大	170	8,300円
1組	10	500円

## 編集後記

なまもろーど四十一号の発行にあたり会員の皆様にはご協力をいただきありがとうございました。新体制となった今年は青木会長の元、会員同士のコミュニケーションを大切にしながら様々な活動が行われてきました。恒例行事に合わせ四十周年記念事業、レクリエーションや懇親会が充実した一年は会員相互の結束を深め、これからの会活動においての大きな力になったように思います。この一年間「温故知新」というテーマの中で共に考え、気づき学んだものをそれぞれの糧として、来年度以降も仲間とともに会活動の歩みを進めていければと思います。

来年度も様々な行事があります。広報部としても会の魅力を伝えるために精一杯励んでいきますのでよろしく願います。